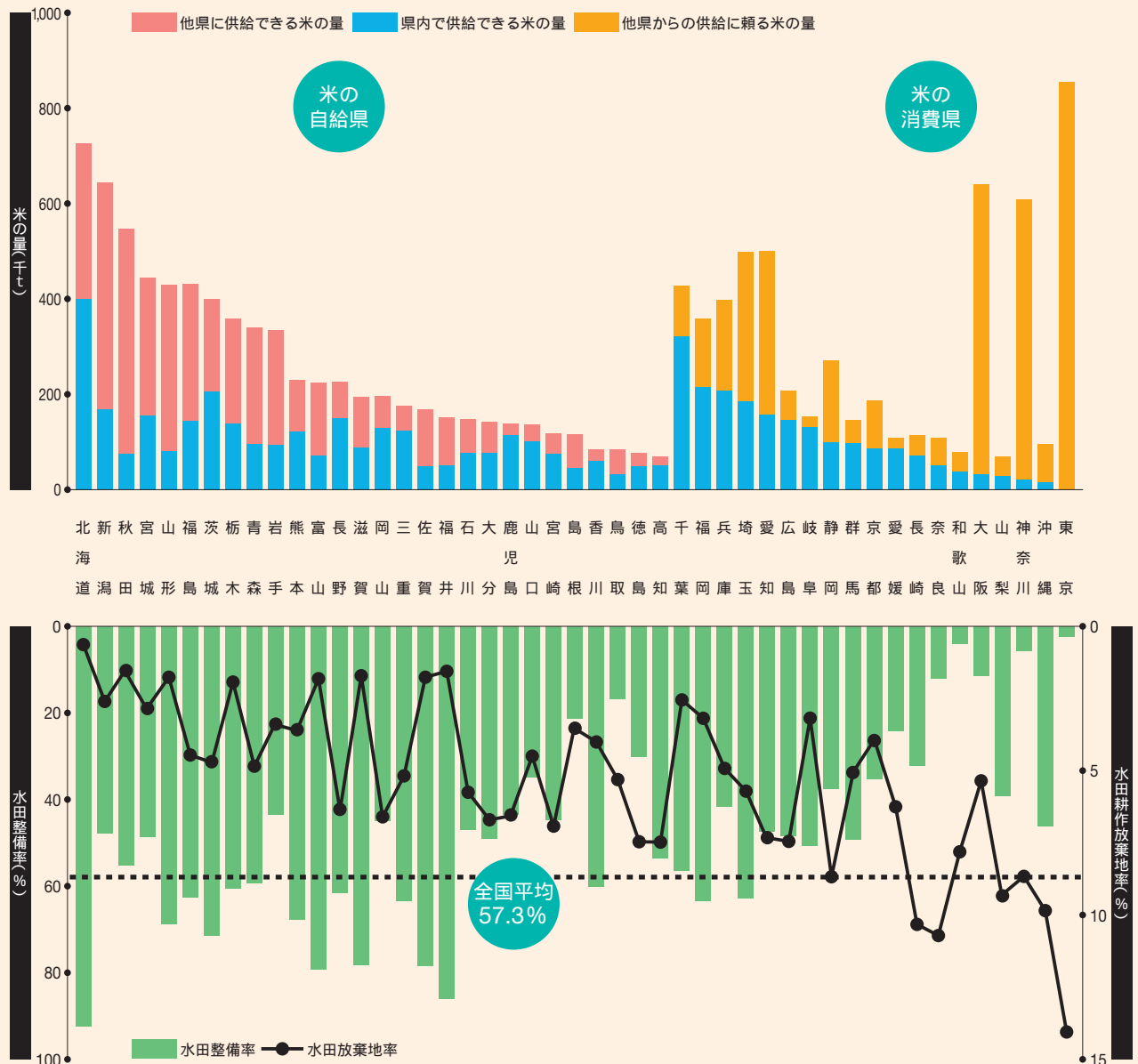


1 米の生産と消費

都会は農村からの安定的な食料供給に依存しています。
整備の進んだ農村ほど持続的な農業が営まれています。

都市住民の食卓を支えるためには、農村からの米をはじめとした食料の安定的な供給が不可欠です。また、水田の整備が進んでいる県ほど水田の耕作放棄率が低いことから、水田農業の持続的発展のためには、効率性の高い生産基盤の整備が必要です。

都道府県別米の生産・消費状況と水田整備率



「県内で供給できる米の量」は、平成11年産作物統計(普通作物・飼料作物・工芸作物)の平均収量による。
 「他県に供給できる米の量」及び「他県からの供給に頼る米の量」は、県別に米供給量(食料供給表 平成11年度)の1人・1年当たり平均供給量に、国勢調査 平成11年 の都道府県別人口を乗じて算出)から、米収量を差し引いて算出した。
 水田整備率は農用地建設業務統計(平成11年)による。
 水田放棄率は、耕作水田面積/経営水田面積×100(耕作水田面積、経営水田面積は2000年世界農林業センサス結果概要)による)として算出した。

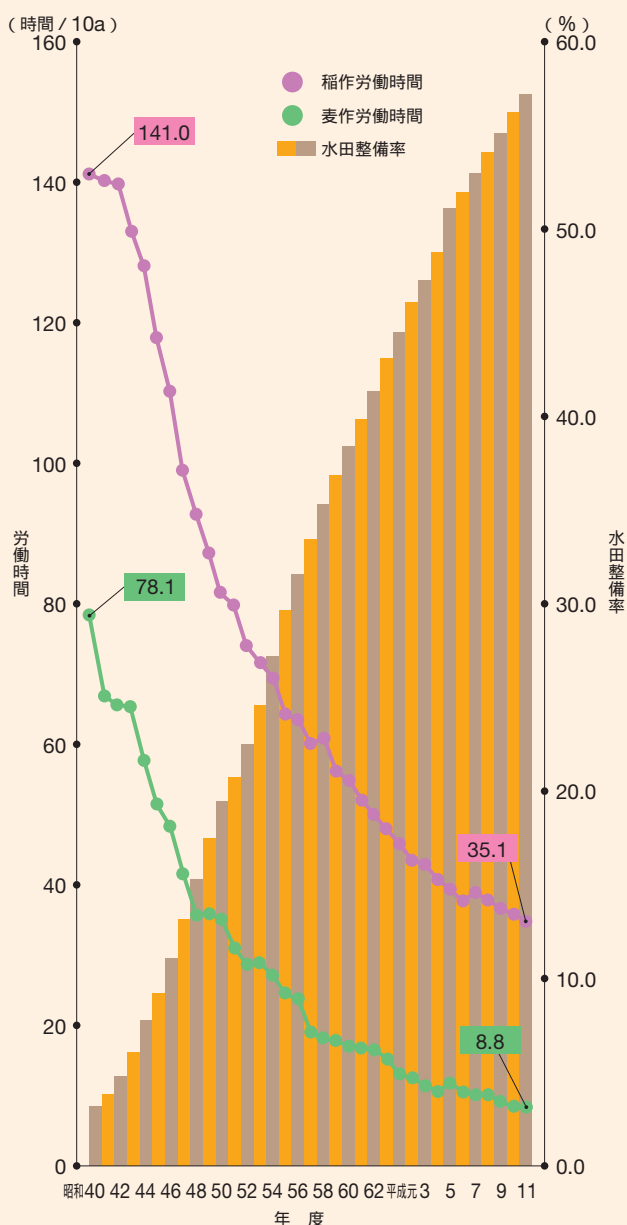
2 ほ場整備と労働生産性

ほ場整備は、農業の労働生産性を大きく向上させています。

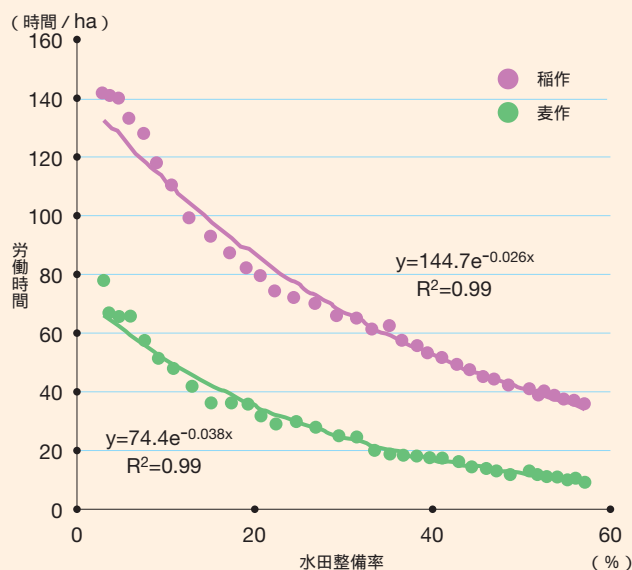
ほ場整備による区画の拡大や排水改良に伴い、農作業の機械化、農薬・種子の改良とあいまって、単位面積当たりの労働時間は大幅に節減されてきています。

労働時間の短縮によって昭和55年から平成11年までに稲作で2,400億円、麦作で110億円の年間労働費が削減されました。

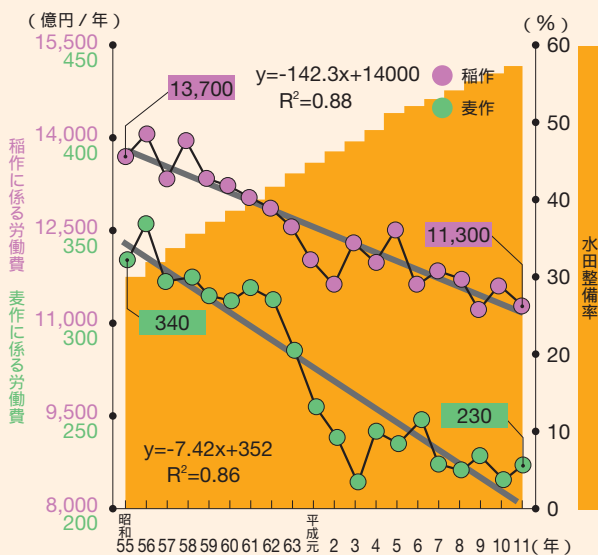
水田整備率と稲作・麦作労働時間の推移



水田整備率と労働時間の相関



稲作・麦作に係る労働費の推移(全国、試算)



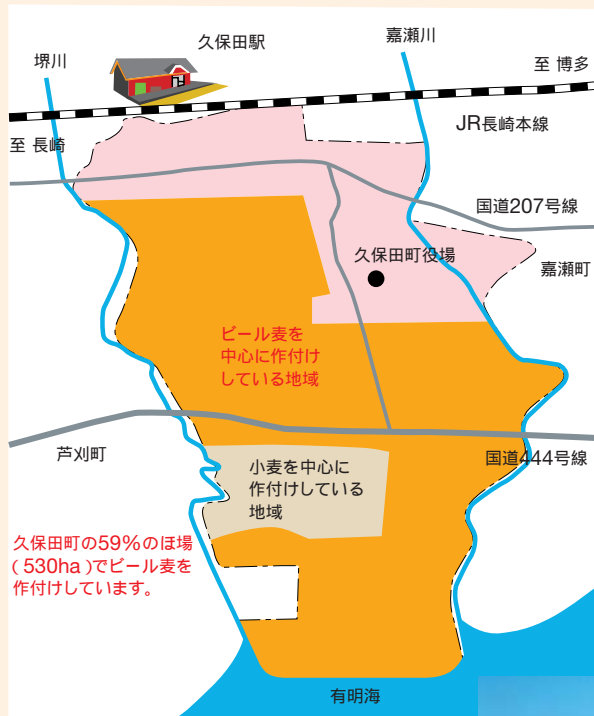
資料) 農用地建設業務統計、土地改良総合計画調査、土地改良総合計画補足調査、土地利用基盤整備基本調査、耕地及び作付け面積調査、農業経営統計調査、農業経営統計調査報告「米及び麦類の生産費」

平成12年の貨幣価値に換算して算出。
昭和55年から平成11年の平均的作付け面積に、各々の平均的労働単価を乗じて算出。

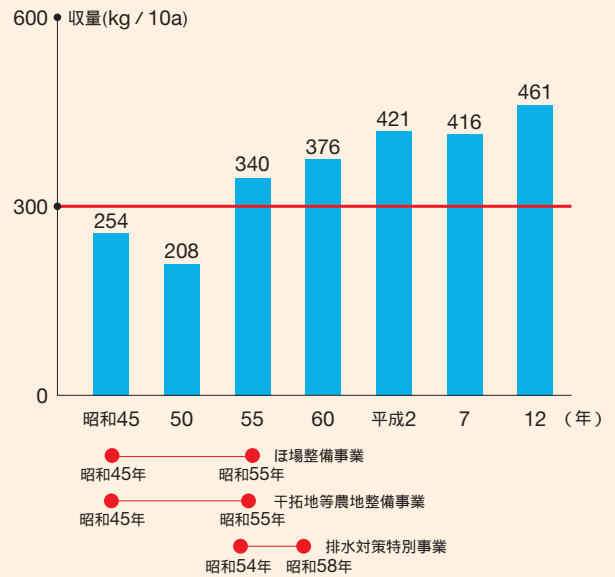
佐賀県では、ほ場整備等による排水改良が、麦の生産性向上に大きく貢献しています。

佐賀県は、ビールの麦芽原料となる二条大麦の全国有数の産地です。その90%近くは大手ビール会社との契約栽培の下で生産され、西日本のビールの麦芽原料として利用されています。
佐賀県久保田町においては、昭和40年代から昭和50年代にかけて、ほ場整備等による排水改良を行い、麦の面積当たり収量が約60%増大しました。

佐賀県久保田町のビール麦の作付け状況



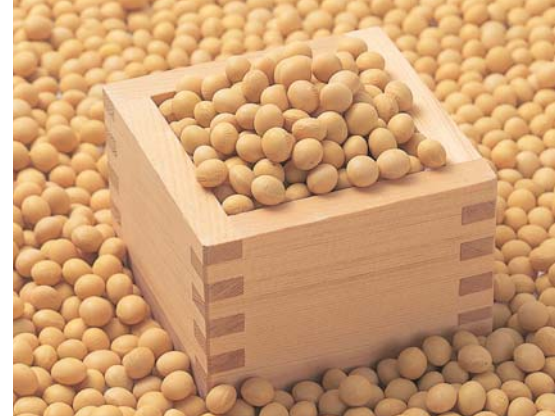
佐賀県久保田町における麦の面積当たり収量の推移



資料) 佐賀県農林水産統計年報、その他農林水産省調べ



4 大豆

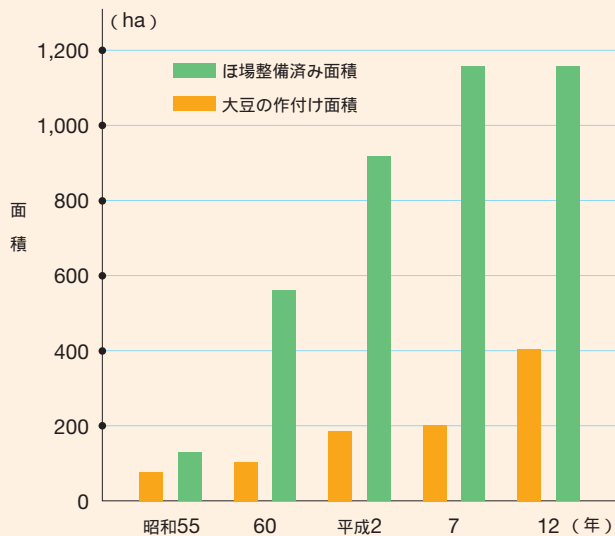


福岡県では、ほ場整備により、大豆の作付けが促進されています。

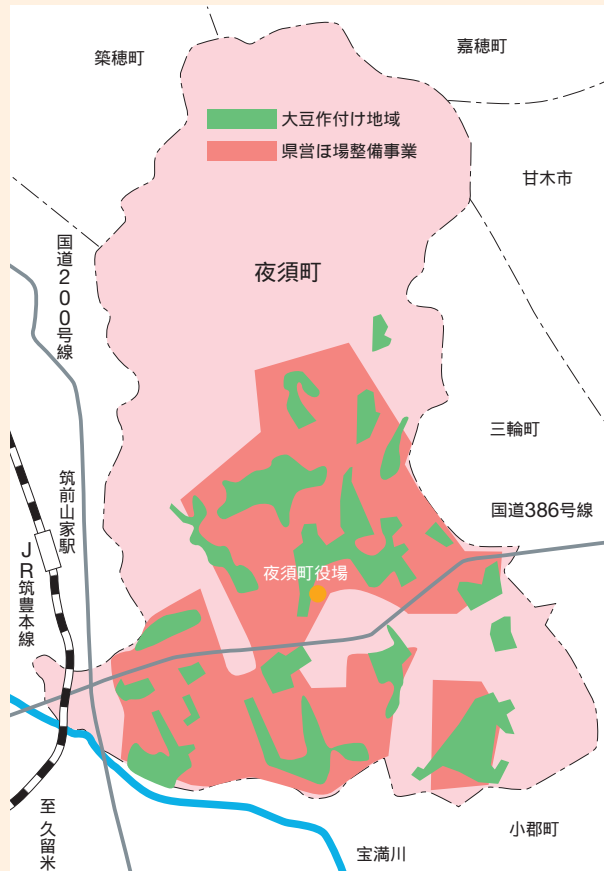
福岡県は、大豆の生産量が全国第3位の大豆の産地です。中でも夜須町はほ場整備の実施に伴い、水田裏作として大豆作付け面積を増やしています。

夜須町における大豆の面積当たり収量は、天候不順や虫害等で大きく減少した年もあるものの、昭和60年代からほ場整備の実施に伴って常に全国平均を大きく上回っています。

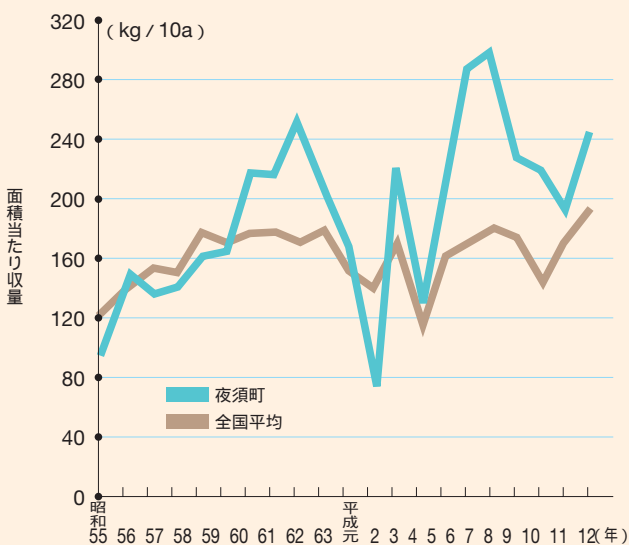
福岡県夜須町におけるほ場整備済み面積と大豆の作付け面積の推移



夜須町における大豆作付け地域



福岡県夜須町と全国平均の大豆の面積当たり収量の推移



資料) 福岡県農林水産統計年報

